

外来生物（爬虫類・両生類）の特徴と選定に際しての留意点（案）

1．外来爬虫類・両生類の特徴

外来の爬虫類・両生類の利用形態としては、大きくペット関連の利用（ペット及びペットの餌用）とその他の利用に分けることができる。また、貨物への混入など非意図的な導入形態も想定されるが、その量は意図的導入に比較して極めて少ないと考えられる。

爬虫類は多くの種が輸入されペットとして流通・飼育されており、特にカメ類が多数輸入されている。コンスタントに輸入されている種は限定されており、ペットショップで常時見られる種は両生類・爬虫類を合わせても数十種程度である。

ペットの餌として、主に爬虫類食の爬虫類及び魚類の生餌として利用されているが、その種数は少なく、取引量はペットに比べ少ない。ペットと比べると安価で、雑に扱われている。

その他の利用として、天敵導入、水産資源、実験用が想定されるが、輸入量、流通量ともに少ないものと考えられる。

2．選定作業を進める際の留意点

ペットとして、多量に輸入され安易な方法で飼養、遺棄される例の多い外来爬虫類等については、その飼養等を規制することで、生態系等への被害防止に効果があると考えられる。

来春の法施行までの限られた期間で第1陣の選定作業を実施する必要があることから、既存の科学的知見を最大限活用するとともに、法の趣旨及び執行体制を勘案し、指定による法規制の効果を十分に検討することとする。

動物愛護管理法に基づく危険動物として管理されている外来生物については、本法による規制及び防除の必要性及び緊急性を検討するものとする。

科学的知見が十分ではないとされるものについても、生態系等に被害を及ぼすことが否定できないものとして引き続き科学的知見の充実に努める必要のある生物としての扱いを検討するものとする。

3．個別に注目されている種の扱いについて

輸入・流通に関して、個体数の上ではアカミミガメが圧倒的に多く、安易な飼養等により遺棄・逸出している可能性が指摘されている。

一方、アカミミガメの飼養者には子供が多くいるとともに、学校や幼稚園等における飼育もなされている。アカミミガメについては、指定されるかどうかにかかわらず、その利用者（飼養者、業者）に対して外来生物問題の意味について普及啓発していくことが重要である。